

NEC

NECソリューションイノベータ

InfoCage FileShell

巡回ツールコマンド

利用ガイド



InfoCage FileShell 巡回ツールコマンド

Version 6.3

利用ガイド

(0630002)

はじめに

このたびは、NEC ソリューションイノベータ株式会社の InfoCage FileShell をお買い求めいただき誠にありがとうございます。

InfoCage FileShell は、電子ファイル自身にセキュリティ情報を持たせた暗号化をおこなうことで、利用者の操作性を損なうことなく重要な情報を永続的に保護する機密情報保護ソフトウェアです。ご使用になる前に本書をよくお読みになり、製品の取り扱いを十分にご理解ください。

■ 商標について

- ・ Microsoft および Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ InfoCage は NEC ソリューションイノベータ株式会社の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の登録商標または商標です。

■ 免責事項

本書および本システムは、ライセンス契約に基づいて使用することができます。

ライセンス契約で明示的に定められていないかぎり、NEC ソリューションイノベータ株式会社は製品、およびその関連文書について、明示的にも暗黙的にも、商品性に関する保証、特定目的への適合性に関する保証、取り扱い、使用、または取引行為に伴う保証について一切の責任を負いません。

本書中のサンプル画面で使用している名称は、すべて架空のものです。実在する品名、団体名、個人名とは一切関係ありません。

本書について




本書は本製品を正しく運用し、効果的に活用するための手引きです。運用を開始する前や運用中に、機能・操作を確認するためにご利用ください。

本書は、巡回ツールコマンドを使ったアプリケーションの開発者、および、巡回ツールコマンドを使ったシステムの運用者を対象としています。

ご注意: 本書の一部、または全部を流用・複写することはできません。

本書中の記号について

本書中では、説明、操作手順の他に以下の記号を使用しています。これらの記号の意味を正しくご理解になり、本書をお読みください。

記 号	説 明
 Notice	システムの取り扱いで守らなければならない事柄や特に注意すべき点、確認すべき点を説明します。
 参照	関連する内容が記載されているページを紹介しています。
 Operation	操作手順を示します。

参考資料について

本書中では、参考資料として以下のガイドを参照するように説明しています。

項 目	ガ イ ド 名	番 号
FileShell 管理者ガイド	InfoCage FileShell 管理者ガイド	0630Knn
FileShell インストールガイド	InfoCage FileShell インストールガイド	0630Snn

* 末尾の「nn」には、「01」、「02」などの数字(版数)が入ります。
版数は、プログラムやマニュアルに変更があった場合に更新されます。

目次

第 1 章	巡回ツールコマンドについて.....	1
1.1	機能	1
1.2	動作環境について	1
第 2 章	注意事項	2
2.1	運用上の注意事項	2
第 3 章	コマンドリファレンス	3
3.1	コマンドの格納場所について	3
3.2	オプション一覧	3
3.2.1	/target [フォルダーパス]	3
3.2.2	/ext [拡張子文字列]	4
3.2.3	/encType [数値]	4
3.2.4	/template [ラベル ID または 権利ポリシーテンプレートのパス]	5
3.2.5	/policyTarget [数値]	9
3.2.6	/policyExt [数値]	9
3.2.7	/dec	10
3.2.8	/silent 127	10
3.2.9	/disableCancel	10
3.2.10	/log 0	10
3.3	巡回ツールコマンドオプションの指定サンプル	11
3.3.1	巡回ツール適用オプション指定サンプル	11
3.3.2	巡回ツール適用解除オプション指定サンプル	12

第1章

巡回ツールコマンドについて

1.1 機能

FileShell クライアントの巡回ツール(IcfCryptTL.exe)に対し、コマンドオプションを使用して実行することにより、任意の条件で巡回ツール適用および巡回ツール適用解除を実行します。

1.2 動作環境について

巡回ツールコマンドの動作環境については、『インストールガイド』の「動作環境について」内の「FileShell クライアント」をご参照ください。

第2章

注意事項

2.1 運用上の注意事項

- * 各オプションを指定する際、全体で文字数が 8191 文字以下となるようにしてください。
- * 巡回ツール(IcfCryptTL.exe)は他の適用(手動適用等)が実行されると一時停止し、他の適用完了後に再開します。
- * 巡回ツール(IcfCryptTL.exe)を複数同時に起動することはできません。
- * 各オプションに対する注意事項は、各オプションの注意事項を参照してください。

第3章

コマンドリファレンス

巡回ツールコマンドは IcfCryptTL.exe にさまざまなオプションを設定して、巡回ツール適用、巡回ツール適用解除を実行します。

3.1 コマンドの格納場所について

巡回ツールコマンド(IcfCryptTL.exe)は以下のフォルダーに格納されています。

- (FileShell クライアントインストールフォルダー)¥IcfCryptTL.exe

3.2 オプション一覧

巡回ツールコマンド(IcfCryptTL.exe)で使用するオプション一覧を示します。

オプション一覧

オプション	説明
/target [フォルダーパス]	巡回ツール適用、巡回ツール適用解除するフォルダーのパスを指定します。
/ext [拡張子文字列]	巡回ツール適用、巡回ツール適用解除する対象ファイルの拡張子を指定します。
/encType [数値]	出力形式を指定します。
/template [ラベル ID/権利ポリシーテンプレートのパス]	巡回ツール適用に使用するラベル ID、もしくは権利ポリシーテンプレートを指定します。
/policyTarget [数値]	FileShell クライアントの自動適用、共有フォルダー適用、巡回ツール適用の設定を利用して巡回ツール適用、巡回ツール適用解除する場合に指定します。
/policyExt [数値]	FileShell クライアントの適用対象ファイルの設定を利用して巡回ツール適用、巡回ツール適用解除する場合に指定します。
/dec	巡回ツール適用解除を実行します。
/silent 127	巡回ツールの画面やメッセージを非表示にする場合に指定します
/disableCancel	巡回ツールの画面の[キャンセル]ボタンを無効にします。
/log 0	巡回ツール適用、巡回ツール適用解除のログをイベントログに出力しないように指定します。

3.2.1 /target [フォルダーパス]

[説明]

巡回ツール適用、巡回ツール適用解除するフォルダーのパスを指定します。
複数指定する場合は|で区切り"で囲ってください(例:"c:¥testA|c:¥testB")。
フォルダーのパス中に空白がある場合は"で囲ってください(例:"c:¥test A")。
各フォルダーのパスは 247 文字以下としてください。

[注意事項]

- * ファイルへ適用または適用解除できるパスの長さは、最大でファイル名を含む 259 文字までとなります。

- * パスの長さが 260 文字以上となるファイルには適用または適用解除できません。
- * /target を使用して巡回ツール適用するフォルダーのパスを指定した場合は、必ず適用で使用する権利ポリシーテンプレート、もしくはラベルを/template で指定してください。
- * /target を使用して巡回ツール適用、巡回ツール適用解除するフォルダーのパスを指定した場合は、必ず適用、適用解除で指定する拡張子を/ext もしくは/policyExt で指定してください。
- * /policyTarget オプションと併用した場合、/target で指定したフォルダーパス、/policyTarget で指定したフォルダーパスの両方が対象となります。

3.2.2 /ext [拡張子文字列]

[説明]

巡回ツール適用、巡回ツール適用解除する対象ファイルの拡張子を指定します。
複数指定する場合は|で区切りで囲ってください(例:"txt|docx")。

[注意事項]

- * /policyExt オプションと併用した場合、/ext で指定した拡張子、/policyExt で指定した拡張子の両方が対象となります。
- * 巡回ツール適用解除時、指定した拡張子に応じて対応するマルチデバイス形式の拡張子も適用解除対象となります。

例)

指定した拡張子	適用解除対象拡張子
txt	txt、ptxt
doc	doc、doc.pfile

- * /template に分類ラベルを指定し、/ext に分類のみをサポートしていない拡張子を指定して実行すると対象ファイルへのラベルの付与は失敗となります。

3.2.3 /encType [数値]

[説明]

出力形式を指定します。

/encType に続いて以下の数値を指定し出力形式を指定します。

/encType を指定しない場合、/encType 0 として適用します。

数値	説明
0	Office IRM/FileShell 形式で出力します
2	マルチデバイス形式で出力します
5	NFP 形式で出力します
6	Microsoft 互換/FileShell 形式で出力します

[注意事項]

- * 巡回ツールによる適用解除の実行時は指定することはできません。指定しても無効となります。
- * /template に分類ラベルを指定し、/encType に 2 を指定して実行しても対象ファイルはマルチデバイス形式で保護されません。(分類ラベルが付与されます)

3.2.4 /template [ラベル ID または 権利ポリシーテンプレートのパス]

[説明]

巡回ツール適用に使用するラベル ID、または権利ポリシーテンプレートのパスを指定します。

(ラベル ID の場合)

Microsoft 互換/FileShell 形式で分類/保護する場合は、使用するラベルのラベル ID を“{ }”で囲んで指定します。

例: /template {a74ea2ac-2ad7-4876-9cda-f94916071f6a}

- * 適用時にユーザーによるアクセス許可の割り当てがおこなえるラベルは指定できません。
- * ラベル ID の GUID は 取得時の文字列のまま指定してください。(大文字などにするとエラーとなります)

(権利ポリシーテンプレートの場合)

権利ポリシーテンプレートを用いて巡回ツール適用を実行する場合、下記例のようにフルパスで指定します。

例: /template C:\ProgramData\Microsoft\MSIPC\UnManagedTemplates\aaa.xml

- * 権利ポリシーテンプレートのパスは 259 文字以下としてください。

NFP 形式で出力する場合は、クライアントにインポートされた NFP 権利ポリシーテンプレートのパスを指定して使用します。(クライアントにインポートされていない NFP 権利ポリシーテンプレートは使用できません)

[参考 1]

ラベル ID は、以下手順で取得します。

Operation

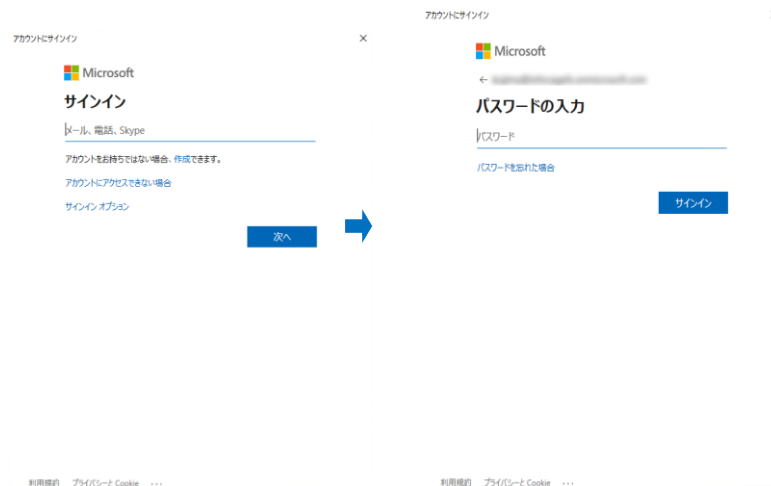
1. Windows PowerShell から、本操作に必要なとなるモジュールをインストールします。
Windows の [スタートメニュー] からプログラムの一覧を表示し、[Windows PowerShell] の右クリックメニューから、「管理者として実行」を選択します。
2. 以下のコマンドを実行し、TLS1.2 を有効にします。
> [Net.ServicePointManager]::SecurityProtocol = [Net.ServicePointManager]::SecurityProtocol -bOR [Net.SecurityProtocolType]::Tls12
* お使いの環境が Windows Server 2019 以降の場合は、本コマンドの実行は不要です。
3. 以下のコマンドを実行し、次のモジュールをインストールします。
 - Exchange Online PowerShell モジュール
> Install-Module -Name ExchangeOnlineManagement
 - * パッケージマネージャー「nuget」のインストール確認メッセージが表示された場合は、「Y」を入力して続行してください。
 - * モジュールのインストール時に、「信頼されていないリポジトリからモジュールをインストールしようとしています..」と表示された場合は、「Y」を入力して続行してください。
4. 以下のコマンドを実行し、モジュール一覧を取得します。
> Get-InstalledModule
5. 一覧の「Name」に手順 3 でインストールしたモジュールが表示されていることを確認します。

```
PS C:\> Get-InstalledModule
```

Version	Name	Repository	Description
	ExchangeOnlineManagement	PSGallery	This is a Gene

6. 以下のコマンドを実行します。
> Connect-IPPSession

7. Microsoft のサインイン画面が表示された場合は、ユーザーID とパスワードを入力します。



* グローバル管理者の資格情報を持つユーザーで接続してください。

8. 以下のコマンドを実行します。
＞ Get-Label | Select-Object -Property DisplayName,Guid を実行します。

9. ラベルの DisplayName と Guid が表示されますので、使用するラベルの Guid を控えます。

```
PS C:\> Get-Label | Select-Object -Property DisplayName,Guid
DisplayName Guid
-----
Label101 71a4bc1b-587b-464c-b44c-8b0bbabcb5d
ラベル2 b349f528-ad77-4340-az93-78bc04740db3
Protect(...) b93fab42-7ee3-47ad-8eb6-40d018f07f02
Label (Ad...) 116dee22-e3c1-424d-9147-3044f961d9e0
```

10. 以下のコマンドを実行して、接続を切断します。

＞ Disconnect-ExchangeOnline

処理を続行してよいかを確認するメッセージが表示された場合は、「Y」を入力します。

[参考 2]

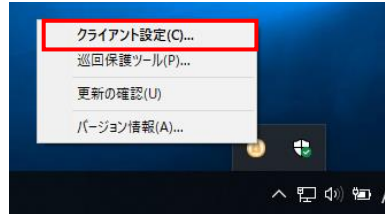
NFP 権利ポリシーテンプレート(xml 形式)は、インポート・適用方式の違いにより以下のいずれかに配置されます。

NFP 権利ポリシーテンプレートのインポート・	配置されるフォルダー
FileShell サーバーから受信	%AppData%\¥NEC¥InfoCageFileShell¥Policy
クライアント設定ツールでユーザーが作成もしくはインポート	%AppData%\¥NEC¥InfoCageFileShell¥EncPolicy
FileShell クライアントのインストーラーに添付され、インストール または IcfPolicyUtil.exe からインポート	%AllUsersProfile%\¥NEC¥InfoCageFileShell¥Policy

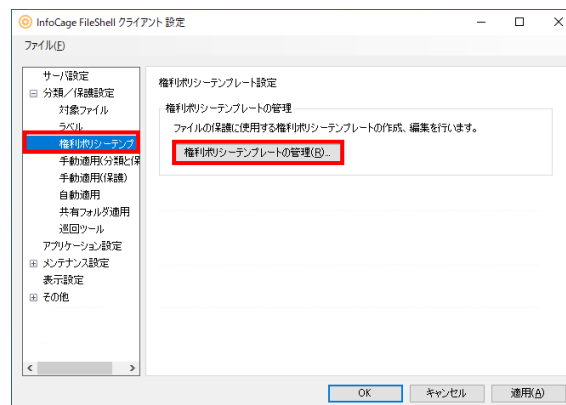
使用する NFP 権利ポリシーテンプレートは、以下の手順で確認します。



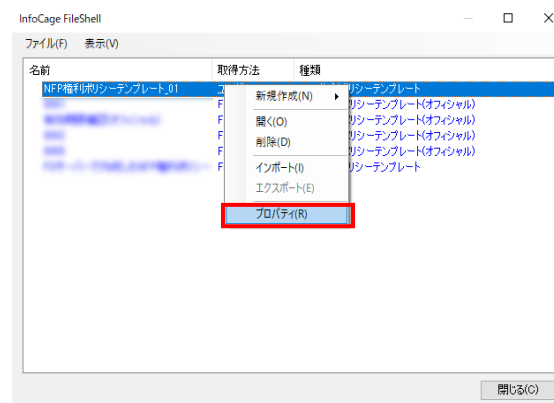
1. 巡回ツール適用に使用する NFP 権利ポリシーテンプレートがインポートされた環境で、FileShell クライアントのクライアント設定を起動します。



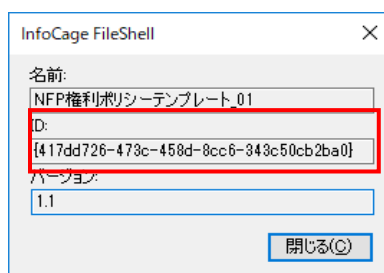
2. 左部メニューより、「分類／保護設定」-「権利ポリシーテンプレート」を選択し、「権利ポリシーテンプレートの管理」ボタンをクリックします。



3. 権利ポリシーテンプレート管理画面が表示されるので、巡回ツール適用に使用する NFP 権利ポリシーテンプレートを選択し、右クリックメニューから「プロパティ」を選択します。

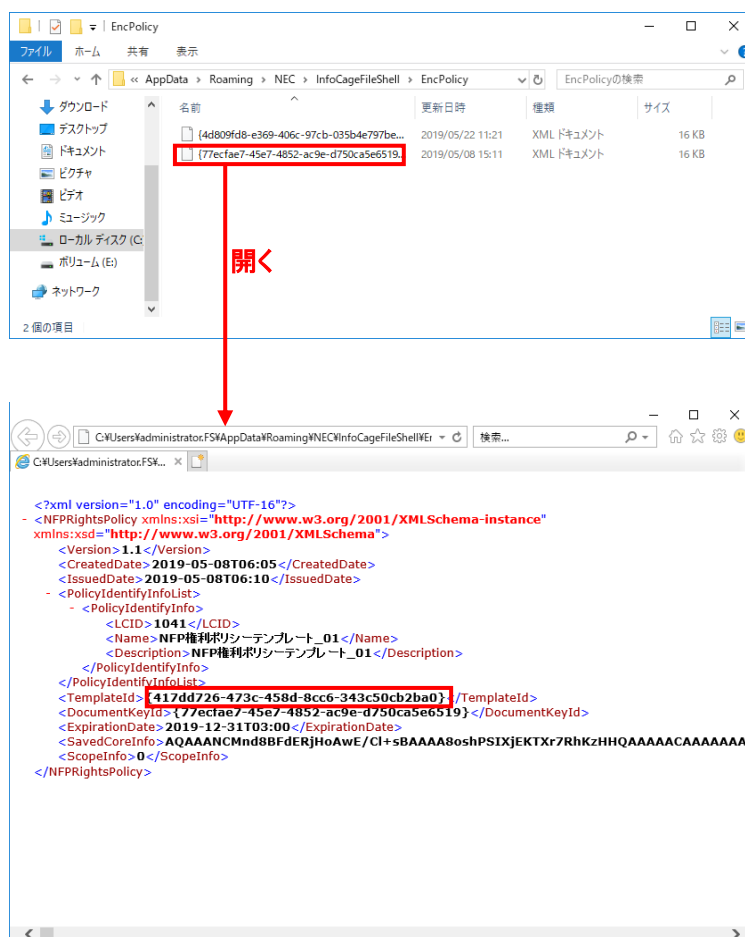


4. プロパティに表示される ID を確認します。



5. エクスプローラーで NFP 権利ポリシーテンプレートが配置されるフォルダー (※ 3.2.4 [参考]冒頭の表を参照) に格納されている権利ポリシーテンプレート(XML ファイル)を開き、手順 4 で確認した ID が <TemplateId>タグに設定されているファイルを探します。手順 4 で確認した ID と <TemplateId>タグの値が一致する xml ファイルが、適用に使用する権利ポリシーテンプレートのファイルです。

* 格納されている xml ファイルのファイル名は、手順 4 で確認した ID ではありません。xml ファイルを開いて<TemplateId>タグの値を確認してください。



[注意事項]

- * 巡回ツールによる適用解除の実行時は指定することはできません。(指定しても無効となります)
- * /template に分類ラベルを指定し、/encType に 2 を指定して実行しても対象ファイルはマルチデバイス形式で保護されません。(分類ラベルが付与されます)
- * /template に分類ラベルを指定し、/ext に分類のみをサポートしていない拡張子を指定して実行すると対象ファイルへのラベルの付与は失敗となります。
- * /template にカスタムアクセス許可の設定が必要な分類と保護ラベルを指定しても動作しません。(エラーになります)

3.2.5 /policyTarget [数値]

[説明]

FileShell クライアントの自動適用、共有フォルダー適用、巡回ツール適用の設定を使用して巡回ツール適用、巡回ツール適用解除するフォルダー、権利ポリシーテンプレート、出力形式を指定します。
/policyTarget に続いて以下の数値を指定し適用設定を使用します。
複数指定する場合は、各数値を足した値を指定してください。

数値	説明
1	FileShell クライアントの「自動適用」の設定を使用する
2	FileShell クライアントの「共有フォルダー適用」の設定を使用する
4	FileShell クライアントの「巡回ツール適用」の設定を使用する
256	FileShell クライアントの「自動適用」の除外フォルダー設定を使用する * 「自動適用」の設定(数値:1)も併せて指定する必要があります 例:/policyTarget 257
512	FileShell クライアントの「共有フォルダー適用」の除外フォルダー設定を使用する * 「共有フォルダー適用」の設定(数値:2)も併せて指定する必要があります 例:/policyTarget 514
1024	FileShell クライアントの「巡回ツール適用」の除外フォルダー設定を使用する * 「巡回ツール適用」の設定(数値:4)も併せて指定する必要があります 例:/policyTarget 1028

[注意事項]

- * /target オプションと併用した場合、/policyTarget で指定したフォルダーパス、/target で指定したフォルダーパスの両方が対象となります。

3.2.6 /policyExt [数値]

[説明]

FileShell クライアントの適用対象ファイルの設定を使用して巡回ツール適用、巡回ツール適用解除するファイルの拡張子を指定します。
/policyExt に続いて以下の数値を指定し適用設定を使用します。

数値	説明
1	自動適用対象に指定された適用対象ファイルの拡張子を適用対象拡張子にする
2	自動適用対象に指定されていない適用対象ファイルの拡張子も含めて適用対象拡張子にする

[注意事項]

- * /ext オプションと併用した場合、/policyExt で指定した拡張子、/ext で指定した拡張子の両方が対象となります。

3.2.7 /dec

[説明]

巡回ツール適用解除を実行します。

[注意事項]

- * 巡回ツール適用解除は画面やメッセージを非表示にはできません。
- * 巡回ツール適用解除画面では[キャンセル]ボタンを無効にすることはできません。
- * /policyTarget は、「巡回ツール適用の適用対象フォルダー設定(4)」のみ指定できます。「自動適用の適用対象フォルダー設定(1)」「共有フォルダー適用の適用対象フォルダー設定(2)」を指定しても適用解除できません。
- * /policyTarget は、適用解除の対象外フォルダーとして、「自動適用の対象外フォルダー(256)」、「共有フォルダー適用の対象外フォルダー(512)」、および「巡回ツール適用の対象外フォルダー(1024)」を指定できます(指定時、これらのフォルダーでは適用解除をおこないません)。

3.2.8 /silent 127

[説明]

巡回ツールの画面やメッセージを非表示にする場合に指定します。

[注意事項]

- * 巡回ツール適用解除実行時は指定することはできません。指定しても無効となります。

3.2.9 /disableCancel

[説明]

巡回ツール画面の[キャンセル]ボタンを無効にします。

[注意事項]

- * 巡回ツール適用解除実行時は指定することはできません。指定しても無効となります。

3.2.10 /log 0

[説明]

巡回ツール適用、巡回ツール適用解除のログをイベントログに出力しないように指定します。

[注意事項]

なし

3.3 巡回ツールコマンドオプションの指定サンプル

巡回ツールコマンドオプションの指定サンプルを示します。

3.3.1 巡回ツール適用オプション指定サンプル

サンプル 1: 以下の条件で巡回ツール適用する場合

条件	指定する値
適用するフォルダー	c:\testA、c:\testB
適用するファイルの拡張子	txt、docx
出力形式	Microsoft 互換形式 / FileShell 形式
ラベル ID	a74ea2ac-2ad7-4876-9cda-f94916071f6a

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /template {a74ea2ac-2ad7-4876-9cda-f94916071f6a} /target "c:\testA|c:\testB" /ext "txt|docx" /encType 6
```

サンプル 2: 以下の条件で巡回ツール適用する場合

条件	指定する値
適用するフォルダー	c:\testA、c:\testB
適用するファイルの拡張子	txt、docx
出力形式	マルチデバイス形式
権利ポリシーテンプレート	C:\ProgramData\Microsoft\MSIPC\UnManagedTemplates\aaa.xml
その他	ツールの画面やメッセージを非表示にする

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /template C:\ProgramData\Microsoft\MSIPC\UnManagedTemplates\aaa.xml /target "c:\testA|c:\testB" /ext "txt|docx" /encType 2 /silent 127
```

サンプル 3: 以下の条件で巡回ツール適用する場合

条件	指定する値
適用するフォルダー	自動適用、巡回ツール適用の設定を使用
適用するファイルの拡張子	txt、docx
出力形式	自動適用、巡回ツール適用の設定を使用
権利ポリシーテンプレート	自動適用、巡回ツール適用の設定を使用
その他	巡回ツールの[キャンセル]ボタンを無効にする

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /policyTarget 5 /ext "txt|docx" /disableCancel
```

サンプル 4: 以下の条件で巡回ツール適用する場合

条件	指定する値
適用するフォルダー	c:\testA、c:\testB
適用するファイルの拡張子	自動適用対象に指定された適用対象ファイルの拡張子
出力形式	Office IRM / FileShell 形式
権利ポリシーテンプレート	C:\ProgramData\Microsoft\MSIPC\UnManagedTemplates\aaa.xml
その他	イベントログにログを出力しない

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /template C:\ProgramData\Microsoft\MSIPC\UnManagedTemplates\aaa.xml /target "c:\testA|c:\testB" /policyExt 1 /log 0
```

サンプル 5:以下の条件で巡回ツール適用する場合

条件	指定する値
適用するフォルダー	c:¥testA、c:¥testB
適用するファイルの拡張子	txt、docx
出力形式	NFP 形式
権利ポリシーテンプレート	C:¥Users¥sample.local¥AppData¥Roaming¥NEC¥InfoCageFileShell¥EncPolicy¥{aaa}.xml

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /template C:¥Users¥sample.local¥AppData¥Roaming¥NEC¥InfoCageFileShell¥EncPolicy¥{aaa}.xml /target "c:¥testA|c:¥testB" /ext "txt|docx" /encType 5
```

3.3.2 巡回ツール適用解除オプション指定サンプル

サンプル 1:以下の条件で巡回ツール適用解除する場合

条件	指定する値
適用解除するフォルダー	c:¥testA、c:¥testB
適用解除するファイルの拡張子	txt、docx

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /target "c:¥testA|c:¥testB" /ext "txt|docx" /dec
```

サンプル 2:以下の条件で巡回ツール適用解除する場合

条件	指定する値
適用解除するフォルダー	巡回ツール適用の設定を使用
適用解除するファイルの拡張子	txt、docx

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /policyTarget 4 /ext "txt|docx" /dec
```

サンプル 3:以下の条件で巡回ツール適用解除する場合

条件	指定する値
適用解除するフォルダー	c:¥testA、c:¥testB
適用解除するファイルの拡張子	自動適用対象に指定されていない適用対象ファイルの拡張子も含めた適用対象ファイルの拡張子
その他	イベントログにログを出力しない

実行するコマンド

```
IcfCryptTL.exe /target "c:¥testA|c:¥testB" /policyExt 2 /log 0 /dec
```


InfoCage FileShell 巡回ツールコマンド
Version 6.3 利用ガイド

NEC ソリューションイノベータ株式会社
東京都江東区新木場一丁目 18 番 7 号
TEL(03)5534-2222 (代)

Copyright© NEC Solution Innovators, Ltd. 2021-2023.

NEC ソリューションイノベータ株式会社の許可なく複製・改変等を行うことはできません。